

平成31年度 自己評価結果報告書

学校名

成田市立遠山小学校

1 学校教育目標

育て駒っ子 かしく やさしく 健やかに ～ふるさとを愛し 未来をたくましく切り拓く～

2 本年度の重点化された具体的な目標

①確かな学力の育成	・基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、基礎学力の向上を図る。 ・授業力の向上をめざし、教職員一人一人が自ら進んで研修する姿勢を大切にする。 ・学校林「駒の森」を活用した環境教育を実践充実する。
②豊かな心の育成	・「考え、議論する道徳」を意識した指導方法の工夫改善を図る。 ・人権尊重の理念の理解を基盤に、いじめを許さない学校づくりに努める。 ・学校行事などの集団活動を通して、協力し合い、自ら進んでより良い学校生活を築こうとする態度を育成する。
③健やかな体の育成	・児童の実態を把握し、体育の授業及び日常生活における運動実践の充実を図る。
④キャリア教育の推進	・全ての教育活動をキャリア発達の視点で関連付け、キャリア発達を支援する。
⑤グローバル化に対応した教育の推進	・成田市小中学校英語科指導基準に基づいた英語教育を充実する。
⑥地域と共に歩む学校づくりの推進	・学校だより・学年だよりの発行や学校ホームページの随時更新により、情報発信に努める。 ・地域の教育力を有効に生かして、地域に根ざした特色ある学校づくりに努める。
⑦安全安心な学校づくりの推進	・防災教育を充実し、「自分の身は自分で守る」という防災意識の定着を図る。
⑧特別支援教育の推進	・本人・保護者の立場に寄り添いながら、合理的配慮に関する共通理解を構築していく。
⑨教職員の働き方改革	・校内行事等のスリム化を図り、業務の総量を減らすことで児童に向き合える時間を創出していく。

3 自己評価結果 ※A(適切) B(ほぼ適切) C(やや不適切) D(不適切)

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
学校運営 教育課程	保: 児童は学校が楽しいと感じているか。	保護者の98%から「適切である」との支持を得た。	B	概ね良好な回答を得ているが、児童が学校に通うことを楽しみにすることが当然のこととなるよう、教育活動に当たっていきいたい。(児童アンケート「明るく楽しい学校」が100%であるが欠席がちの児童は回収できていない。) 2名の児童が欠席が多くなっている。各々の事情は異なり、対応しているが、引き続き寄り添った対応をしたい。
	保: 行事の時期や内容は、学校や児童の実態を考慮して実施されているか。	保護者の98%から「適切である」との支持を得た。	A	
	児: 遠山小は、明るく楽しい学校だと思うか。	児童の100%から肯定的な回答を得た。	A	
	職: 学校行事は適切に行われていると共に充実しているか。	教職員の90%が「十分」「概ね十分」と考えている。	B	
学習指導	保: 授業はきめ細かい学習指導に努めているか。	保護者の100%から「適切である」との支持を得た。	A	学校教育目標の「かしく」に該当。 保護者からは学校の取組に対し、良好な回答を得ているが、自分の子供に対する学習態度には、十分な満足度ではない。保護者の子供への願いの表れでもある。 児童アンケートで、「担任の先生は、間違えたり分からなかったりした時に、分かるようになるまで教えてくれる」と多くが回答しており、本校職員の地道な取組の成果と考える。今後も継続していきいたい。 職員の自己評価では、職員の共通実践、研修の成果が表われており、継続していきいたい。
	保: 学習に進んで取り組む子に育っているか。	保護者の89%から「適切である」との支持を得た。	B	
	児: 授業中、進んで発表しているか。	児童の93%から肯定的な回答を得た。	B	
	児: 担任の先生は、間違えたり分からなかったりした時に、分かるようになるまで教えてくれるか。	児童の96%から肯定的な回答を得た。	A	
	職: 毎時間学習問題を児童に提示しているか。	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
	職: 児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を行っているか。	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
生徒指導	保: 児童が困っていたり、悩んでいたるときは、先生方が親身になって対応してくれるか。	保護者の97%から「適切である」との支持を得た。	A	保護者、児童からは概ね良好な回答を得ているが、児童は個々に悩みや心配を抱えていることが「学校生活アンケート」等から把握できる。教育相談や日頃の声かけ、学級担任だけでなく多くの職員からの見守りで、安心して通える学校づくりを目指していきいたい。 評価項目以外では、「元気なあいさつ」「『はい』の返事」が不十分と考えている。小学校時代に身につけさせたい習慣と心得、指導していきいたい。
	児: 担任の先生は、休み時間に一緒に遊んだり、おしゃべりをしてくれたりするか。	児童の95%から肯定的な回答を得た。	B	
	児: 担任の先生は、困った時にいっしょけんめい相談にのってくれるか。	児童の96%から肯定的な回答を得た。	A	
	職: 基本的な生活習慣を身に付けさせるための工夫がなされているか。	教職員の100%から「適切である」と考えている。	A	
	職: 児童のことで職員が共通理解し、全体で取り組む体制が整備されているか。	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
道徳 人権教育	保: 相手の立場を考え、協力する子に育っているか。	保護者の97%から「適切である」との支持を得た。	A	学校教育目標「やさしく」に該当。 概ね良好な回答を得ている。道徳の軸として「豊かな心」を育み、日々の教育活動を通じて温かい人間関係づくりに引き続き取り組みたい。
	児: 困っている友達がいいたら、声をかけたり手助けをしたりできるか。	児童の98%から肯定的な回答を得た。	A	
	職: 学校人権教育の充実を図っているか。	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
保健 安全管理	保: 運動に親しみ、進んで体を鍛える子に育っているか。	保護者の76%から「適切である」との支持を得た。	B	学校教育目標「健やかに」に該当。 保護者の評価はこの分野が低い。しかし、児童は体育の授業を好み、運動部活動にも全力で取り組んでいる。低学年も、登校後や休み時間にマラソン、縄跳びなど季節ごとの種目に熱心に参加しており、継続させたい。
	児: 進んで体力づくりに取り組んでいるか。	児童の98%から肯定的な回答を得た。	A	
	職: 体育指導、健康教育の充実を図っているか。	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
保護者・地域 との関わり	保: 学校便りや学校公開、行事への参加等で学校の様子を知らることができるか。	保護者の100%から「適切である」との支持を得た。	A	良好な評価を得ている。学校だより、ホームページを通じた情報発信を継続させる。 保護者が参加する行事、地域人材を活用した行事が多く、地域との結びつきが本校の強みである。協力関係を継続させていきいたい。
	保: PTAの行事や活動などにより、保護者と学校が連携した取組が見られるか。	保護者の100%から「適切である」との支持を得た。	A	
	職: 外部人材を活用した授業や行事が充実したか。(各教科・素敵な先輩シリーズ)	教職員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	

↑ 数値だけでなく回答内容を含めて判断した。

4 自己評価の結果の分析

学校教育目標「育て駒っ子 かしく やさしく 健やかに ～ふるさとを愛し 未来をたくましく切り拓く～」
かしく……学力の向上は、毎時間の授業の充実から。児童が主体的に学習する授業、楽しい授業、わかる授業を実践していく。
次年度は新学習指導要領の完全実施にあたり、研修を深め、推進していきいたい。
やさしく……これまでの取組の方向性はよい。引き続き、「豊かな心」を育むこと、温かい人間関係づくりに努めていく。
健やかに……体育、運動への取組は向上している。健康(食育)も含め、心身の調和のとれた成長を図っていく。

ふるさとを愛し ～～～ 学校・家庭・地域の連携により、自分の生まれ育った地域がますます好きになる児童を育成する。
未来をたくましく切り拓く ～～ 体も心もたくましく成長し、自分の希望する未来へ歩もうとする児童を育成する。